

現職教育

(1) 研究構想図

目指す学校像

一人ひとりが輝く学校



学校教育目標

豊かな心と確かな学力をもち、共にたくましく生きる児童・生徒の育成

研究主題



「学び合いのある授業づくりを目指して」

～全員が楽しくわかる授業づくりの工夫～



話し合い活動の充実

- ・自分の考えを構築
- ・自分の考えを表現
- ・自分の考えと他の考えを比較
- ・自分の考えを再構築
- ・スピーチ活動の充実
- ・フリートーク活動の活用



指導方法の工夫 (授業のユニバーサルデザイン)

- ・課題の焦点化
- ・課題提示の工夫
- ・指導内容の焦点化
- ・友達の意見を再現
- ・教材研究(発問、板書、教材等)
- ・ペア学習やグループ学習の導入

複式指導・学び方の充実

- ・ノート指導のあり方
- ・教科系の育成(司会、板書)
- ・学び方のステップ
- ・家庭学習の充実
- ・評価の工夫



認め合う関係作り

- ・児童、生徒一人ひとりの良さを生かす集団作り
- ・互いの考えが尊重し合えるような言葉かけ
- ・個に寄り添い、個の考えを見取る手だての工夫



小中連携

- ・教科指導の連携(小中の授業の乗り入れ)
- ・校内授業研究、校外授業研究
- ・児童生徒主体の行事(運動会、文化祭、地域連携行事)
- ・児童生徒理解



(2) 主題設定について

これまで毛原小学校では、「意欲的に取り組み楽しく学び合う子」という主題を設定し、話し合い活動の充実に重点を置き、複式授業の充実に向けて取り組んできた。その結果、子ども達は、話し合い活動を通して温かな人間関係を築くことができた。また、その話す力を教科指導にも生かすという研究課題に取り組み始め、児童の主体的な学び方について少しずつ成果を見出したところであった。

また、長谷毛原中学校では、「責任感をもち、主体的に取り組む生徒の育成～小規模校の特色を活かして～」という主題を設定し、少人数学級の特性を踏まえた授業研究、基礎学力の充実、思考力表現力を育成する指導方法について研究を進めてきた。小規模校ならではのきめ細やかな教育活動により、一人ひとりが大切にされ、教師と生徒の温かな人間関係が築き上げられてきている。

本年度、毛原小学校と長谷毛原中学校では、同じ校舎内で小学生と中学生が学び始めた。小学生と中学生が同じ空間で生活を共にするという利点を現職教育の場でも大いに生かせるようにしようと全職員が、新たな取り組みを様々な部門で考えているところである。そこで、学校教育目標や研究課題を一本化し、小中連携して目標を達成していこうということで、目指す学校像を「一人ひとりが輝く学校」、学校教育目標を「豊かな心と確かな学力をもち、共にたくましく生きる児童・生徒の育成」とし、研究主題を「学び合いのある授業作り」～全員が楽しくわかる授業作りと設定した。

研究主題「学び合いのある授業作り」の土台となることは、教師主導の授業ではなく、児童、生徒が主体となって授業を進めていける力をつけることである。そのために必要なことは、児童、生徒のコミュニケーション能力である。これまでスピーチ活動で培った力を深化させ、フリートーク活動も効果的に導入しながら教科活動の中でもその力を発揮できるような授業展開を工夫する必要がある。中学生も機会を見つけて、小学生と一緒にスピーチ活動する時間を設定するなど小中が一緒に活動できるように工夫したい。

更に、「学び合い」を成立させるために「わかる授業」についての研究が必要である。全員がわかる授業にするためには、どんな授業作りの工夫が必要であるのかを、授業のユニバーサルデザインの視点（シンプル、ビジュアル、シェア）を取り入れながら考察していこうと考えている。

自主学習力の力を大いに必要とされる複式授業に於いては、その力を育成するために、教科系の育成や複式授業での学び方を身につけさせる必要がある。本来自主学習力は、複式授業に限らず単式の授業に於いても大変有効であるので、低学年の頃から育成していくことが重要課題である。この学び方の基礎を小学校6年間で身につけさせ、更に中学校3年間で完成させて、将来必要とされるであろう学習の基盤を体得させるようにしたい。

このようにして一人ひとりが授業の中で活躍できる「学び合い」を9年間を通して完成させていけるように現職教育を充実させ、常に「わかる授業」について研究を深め、実践、検証、分析できるようにしたい。また、日頃から中学校と小学校が連携を密にして一人ひとりを大切にする教育活動に励んでいこうと考えている。

本年度より始まる新たな小学校、中学校が連携した教育活動の中で、学校教育目標を実現するために児童、生徒をより豊かに逞しく育みながら職員が一致団結して研究を深めていこうと願いを込めて本主題を設定した。

3、研究内容

(1) 話し合い活動の充実

- ・スピーチ活動やフリートーク活動で培った力を教科学習の中で活用させる。(発表の仕方や質問の仕方を身に付けさせる)
- ・自分の考えを作らせる。(自分の考えは、ノートに書いてから発表するという習慣をつけさせるようにする)
- ・自分の考えを表現し伝え合わせる。(必ず理由を言わせるようにする)
- ・自分と他の考えを比べさせる。(同じところ、ちがうところ、いいなと思うところを発表させる)
- ・自分の考えをまとめさせる。(話し合いによりどのように考えが変化したのかをノートにまとめさせるようにする)

(2) 指導方法の工夫(授業のユニバーサルデザインの視点・複式授業の自主学習力)

- ・課題を焦点化する。児童、生徒にとってわかりやすいシンプルな課題を考える)
- ・課題の提示の仕方を工夫する。(ビジュアルな課題、挿絵、カード等を使用する)
- ・ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れさせる。
- ・友達の意見を再現させる。(友達の意見を再現したり、補ったりする)
- ・教科係を育成する。(教科係が授業を進めたり板書したりする)
- ・指導すべき事を明確にする。(学年ごとに教えるべき事を整理する)
- ・ノートの書き方を指導する。(自分の考え、友達の考え、まとめを書く)
- ・複式授業を充実させるための学び方のステップを設定する。
- ・教材研究を充実させる。(発問のしかた、わかりやすい板書、しかけのある教材、挿絵の効果的な利用等について研究する)
- ・交流学习により習得すべき事を指導する。(プレ教材からメイン教材へ)
- ・自主的意欲的に学ぶことができるように家庭学習を充実させるようにする。
- ・教師の評価、友達の評価、自分の評価等の工夫をして自主的な学びを喚起する。

(3) 認め合う関係作り (小規模校の特性を生かして)

- ・一人ひとりの良さが生きる学級、学校にする。
- ・一人ひとりの良さを評価できるようにする。
- ・互いの考えが尊重し合えるような言葉かけや指導をする。
- ・個に寄り添い、個の考えを見取る手だてを工夫する。

(4) 小中の連携

- ・教科学習(小中の授業の乗り入れ、高学年の教科担任制)
- ・授業研究の機会を増やす。(小中で授業を見合う)
- ・児童生徒主体の行事(運動会、文化祭を合同で行う)
- ・児童生徒についての話し合い(情報を共有する)